樹



北海道羽幌高等学校
平成３０年度
３年Ａ組　ＨＲ通信
９月２１日　第１９号
発行者：山形　慶

常に冷静であれ～震災から私が得た教訓

平成 30 年９月６日(木)３時７分、出張のため、札幌駅近くのビジネスホテルに宿泊していた私の携帯電話が緊急地震速報を発した。恐らくは震度 3~4 位だろうと思い、咄嗟に枕を頭の上に乗せた(ベッドの下には潜れなかったからだ)。前日、授業中にシェイクアウトを実施していたからこそ、臨機応変に対応できたと思う。揺れが収まり、何が起きているか把握するためにニュース速報を見た。震源地が胆振地方中東部であったことに驚いた。ニュース速報やツイッターのタイムラインを見ていると、札幌市内で停電になっている箇所が増えている旨の発言を多く見た。そうこうしているうちに私が宿泊していたホテルも停電となり、その後断水した。暗くなったホテルでは、ホテルスタッフ、宿泊客が非常灯を使って何かしらの作業をしていた。朝になり、最低限の食料と飲料を求めコンビニへ向かった。幸いにもパンとミネラルウォーター、お茶を購入することができ、そしてホテルにもう１泊することができた。

今回地震に遭遇した中で、私が冷静に行動できたのは、高校時代の知識と経験(青少年赤十字活動を通して学んだ)、そして７年前の東日本大震災時の経験(日持ちする食料と 1.5~2Ｌの水・お茶を入手すること)のおかげだったと思う。想定していない突発的な事象が発生したとき、その場の状況を把握し、自分の持っている知識・経験に照らし合わせることで、最適な行動を決定できる、つまり冷静な判断のもと行動できると言っても過言ではありません。

そのためにも、避難訓練・シェイクアウト・地学基礎、そして先週行われたシリーズ講演会(宮城県教育委員会・中澤氏の講演)で学んだ防災の知識、例えば「地震が発生したら、津波といった二次災害に巻き込まれないためにも高台に避難する」「停電したら、電気が復旧するまではガスの元栓を締め、ガス漏れによる発火を防ぐ」などいろいろあるが、決して忘れてはならないのです。

来春、皆さんは社会に出ていくことになる。中には親元を離れ、札幌市や旭川市などで一人生活をする人もいるでしょう。自分の身を自分で守るためにも、日頃から「防災意識」と「被災時の立ち回りに関する知識」を持っていてほしい。

連絡

今後の行事

２５日(火)　キャリア教育講演会④
２７日(木)　漁業体験
２８日(金)　漁業体験(予備日)
　　前期終業式

羽幌高校公式ホームページ
随時更新中！
http://www.haboro.hokkaido-c.ed.jp/

来週の時間割

	火	水	木	中止時	金
1	選択Ａ	選択Ｆ	漁港集合・調理実習あります　総合（漁業体験）	選択Ｂ	選択Ａ
2	ｺﾐｭ英	ｺﾐｭ英		体育	体育
3	選択Ｃ	選択Ｄ		選択Ｅ	選択Ｅ
4	現代文	現代文		ｺﾐｭ英	選択Ｄ
5	講演会④	体育		現代文	ｺﾐｭ英
6		HR		総合	前期終業式
7					